

# はまなす通信



野田はまなす会会報  
No. 66 (令和5年2月)

写真: 国帰リレクリエーション



2022/10/09

令和4年10月9日(日)  
新京成線、JR武蔵野線八柱駅南口に午前10時集合で、ふるさと野田村特産の「荒海ホタテと南部福来豚を味わう会」が、千葉県松戸市にある「21世紀の森・木もれ陽の森・バーベキュー場」で、千葉県幹事の担当で行いました。役員7名は、駅に9時30分集合して、4名は近隣のスーパーに食材の買出しに、3名は駅南口で待機し、参加者会員の到着を待つて、バス3番乗場で21世紀の森「八原台」まで誘導し、10時30分現地バーベキュー場(BBO)入口で待ち合わせ、会場に入りました。

はまなす会の会場は炊事場に近くとても良い場所でした。久慈士郎会長の挨拶の後、全員で手分けして、設営にあたりました。手指消毒する係、椅子テーブルを拭き掃除する係、食材を調理準備する係、ゴミ袋を設置する係、炉の炭をおこす係、包丁を研ぐ係、テーブルに食器を配置する係、等々皆さんてきぱきと動き日頃の成果をいかんなく発揮されていました。

メニユーと機材は、野田ホタテ70枚、福豚4kg、焼きそば3kg、豚汁17ℓ、飲料(ビール・焼酎・氷結・ハイボール・ノンアル飲料・ウーロン茶・水等々)80ℓ、野菜類10kg、炭15kg、網焼き炉2基、鉄板焼き炉1基を使用、およそ12時頃、いざ決戦の準備が出来上がりました。参加者からノンアルコールのビールが一箱差し入れもありました。桜庭昌吾顧問にバーベキュー開始の挨拶と乾杯をしていただき勢いよくスタートしました。皆様の日頃の腕をいかに発揮され、ドンドン焼いて、ドンドン食べて、焼き方に夢中になり飲み忘れ食べ忘れしている方、久し振りに仲間の顔を見ておしゃべりに夢中になっている方、ワイワイガヤガヤ楽しい時間は、あつという間に過ぎました。あれほどあった食材もスッカスカ、午後3時にBBO場の閉門の放送があり、米田忠男副会長の閉会の挨拶の後、全員で片付け、掃除を行いました。BBO場の前で、全員で記念撮影を行い、午後4時には会場を出て、バスで八柱駅に向かいそれぞれ岐路につきました。暑くもなく、寒くもなく、ほどよくほろ酔いになり、お腹は膨れ満足の1日になりました。噂では、まだ飲み足りない猛者は八柱駅付近の居酒屋に移動して大いに氣勢を上げたようです。皆様、楽しい1日をありがとうございました。また次回も宜しくお願いします。



# 新年のごあいさつ

会長  
久慈 士郎

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、ご健勝にて新年をお迎えのこととお慶びを申し上げます。

日頃から当会の活動に対し、多大なご支援ご協力を賜り役員一同、心から感謝申し上げます。

思い起こせば2020年(令和2年)から始まったコロナ禍も3年経過しました。その間、不自由な生活を強いられた時期もありました。

2023年(令和5年)も幕を開け、今年こそはと、再生の歩みを進められたら、そんな一年の計を胸に刻みたいと思います。

昨年は、一昨年に続き「総会・交流会」を参加者の感染予防、会場の確保等々を勘案し、中止の止むなきに至りました。残

念でなりません。

令和5年度「総会・交流会」は6月25日(日)実施予定と決議しました。会員の皆様

には、コロナ感染に十二分にお気を付けいただき、元気で再会できることを心待ちにしております。ワクチン接種率も向上、5回目ワクチン接種が始まりましたが、昨年末から再び感染拡散が懸念されます。油断は禁物です、

基本的な感染予防対策はこまめに実行していきましよう。そんな中でも6月には状況の許す範囲で「令和4年度第1回役員会議」を事務局小野寺総括主査出席のもと開催できた事。そして、10月には千葉県松戸市21世紀の森公園にて、野田村産荒海ホタテ・南部福来豚を食材とし、バーベキューで

野田村の味を堪能しながら、久々の再会に笑顔の絶えない一日を過ごすことができました。準備にご尽力頂いた皆様に感謝

申し上げます。

特筆すべきは、2015年(平成27年)「野田中・三崎中」の合同チーム同様、「野田フェニックス」学童野球チームが岩手県代表で全国大会(高円宮杯全国大会)に出場した事です。当会も応援団を結成、会旗を手に応援に駆けつけました。真剣に、真面目に試合に挑む子供たちの姿に、多くの感銘と、大きな力を頂きました。

自身も、コロナ禍で3年間帰省を自粛しましたが、一昨年全線開通した「三陸沿岸道路」の利便性を体感してみたいと思っております。

結びに、新年が皆様にとりまして、何よりも健康で、最良の年となりますことを、心からご祈念申し上げます。ご挨拶と致します。



# 新年のごあいさつ

野田村長  
小田 祐士

新年、明けましておめでとうございます。令和5年の年頭にあたり、謹んで新春のごあいさつを申し上げます。

貴会の皆さまにおかれましては、日頃から故郷である野田村のため、心温まるご支援とご協力を賜り、心から厚く感謝申し上げます。

昨年は、未だ収束が見えない新型コロナウイルス感染症拡大に加え、原油価格・物価高騰などの影響により、経済的打撃を受ける状況下にありましたが、野田まつりやまんぷくマルシェ(以前の産業まつり)が開催されるなど、各種イベントが再開し、久々に村の賑いと村民の笑顔を感じる事ができた一年となりました。

また、学童軟式野球チー

ムの野田フェニックスが全国大会に出場するなど、村を明るくする話題もありました。本年は、老朽

化が進んだ野田村立野田小学校の移転替え事業を推進し、未来を担う子どもたちが安心して学べる学校環境の整備を進めるほか、村の新たな玄関口である三陸沿岸道路野田インターチェンジ付近への交流物産等複合施設の建設を引き続き検討し、交流人口の拡大など地域活性化に向けて邁進してまいります。

新型コロナウイルス感染症拡大の1日でも早い収束を願いつつ、本年は総会・ふるさと交流会において皆さまにお会いできることを楽しみにしております。

結びに、貴会のより一層のご発展と皆さまにとりまして幸多き一年となりますことを心からご祈念申し上げます、新年のごあいさつといたします。

## 会員の声

### 「多くの人々に支えられて」



河戸サヨ子 (旧姓・川向) 米田出身・野田中昭和35年卒

私は、米田地区出身の河戸サヨ子(旧姓川向)です。この歳まで多くの方々に支えられて生きてきたなとしみじみ思う今日この頃です。

札幌市から東京に戻って以来、ここ十数年間、はまなす会の行事に参加しています。ふるさと交流会、日帰りレクリエーションと年2回の行事に欠かさず参加することを楽しみにしていました。しかし、残念ながら新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、2年間開催が中止となって皆さんと会うことができず、今年度は10月に3年ぶりに日帰りレクがありました。久しぶりに皆さんに会い、和氣藹々と

おしゃべりしたり、飲んだり食べたり、ふるさとの味を堪能し、幸せな一日でした。

昔を振り返ってみました。私は、米田地区に生まれ育ちました。米田地区には私の同級生が11人もいましたので、学校の行き帰りは賑やかでした。私たちの通った野田小学校は今の役場の隣にあった明治9年に建てられた古い木造2階建ての校舎でした。学校へは十府ヶ浦、松林を通り、国道45号を歩き、旭町の手前の田んぼを一直線に駆け抜け、橋を渡り通ったものでした。

勉強の事は余りよく覚えていませんが、友達と遊ぶことが楽しくて、学校を休むことがなかったように思います。ドッジボール、お手玉、おはじきなどで遊んでいました。家の畑仕事のお手伝いをしたくないため、帰りは遊んで帰りました。あまりいい子ではありません

でした。

野田中学校から米田の家までの帰り道は、普通、泉沢を抜け、山を越えて行くのですが、私は城内回りで城内や新山の友達と一緒に帰って、城内で暗くなるまで遊んでいたものでした。暗くなると帰るので、いつも母親に叱られていました。

卒業したら家の手伝いをする事でしたが、それは嫌なので、知人に紹介していただき、盛岡に出て就職しました。2年ほど勤めて野田に戻って、家の手伝いをしていました。が、夢も希望もなくつまらない毎日を送っていました。心の中では都会への憧れがふくらんでいました。そんなとき運がよくなりました。これもありがたい方のお世話のお陰でした。感謝の気持ちでいっぱいでした。

東京で落ち着いて仕事ができるようになった頃、ご縁があって結婚しました。東京世田谷の下馬に

住んでいました。夫は立川市生まれで、ゴルフのレッスンプロで、ゴルフを指導する仕事をしていました。仕事の関係で転勤が多く、南は高知県、北は北海道札幌市と何回も引っ越しをしました。札幌は一番長く12年間住んでいました。

生活も安定し、地域のお手伝い、ボランティア等忙しいながら楽しい日々でした。2人の子どもがいて、長男の大学入学を期に家族で東京に戻りました。

暇ができたので何か仕事を探そうと思いましたが思うようには行きませんでした。もっと勉強しておけばよかったと思うばかりでした。そこで一念発起、人のためになるような仕事、人に喜んでもらえる仕事をと考えて、介護の勉強を始めました。

介護の仕事が続いているうちに、やりがいのある仕事、自分に合っている仕事だと気がつきました。仕事をしながら楽しく、

生きがいとなりました。気がついたら、この仕事一筋に30年近くになります。現在も週2回、志木市から世田谷まで通っています。

この仕事に携わって、今まで多くの方々に出会い、色々なことで数え切れないほど支えていただきました。これからはこのご恩にお返しをしようと思えます。介護される人の立場になって優しく、親切に、その人の人権を最大限尊重し、弱みに寄り添い、恥ずかしい思いにさせない接遇、明るく元気に笑顔であいさつなど、親身になつて寄り添い、思いやりのある介護に努めたいと思っております。

終わりに、野田はまなす会は、唯一安心できる場であり、年齢問わず楽しく交流できる場です。私は欠席することなく10数年経ちました。これからもこの会が発展し継続することを心よりご祈念申し上げます。

「日帰りレクリエーションに初めて参加して」一期一会に感謝して〜」



荒井 政子 (旧姓・辻原) 南浜出身・野田中昭和43年卒

ふるさと野田村出身者で組織された「野田はまなす会」恒例の日帰りレクリエーションに初めて参加しました。ふるさとのなまり懐かしい語らいを聞いていますと、生まれ育った南浜の風景の中にいるような心地よい気持ちになりました。

去る10月9日(日)千葉県松戸市の「21世紀の森広場」木もれ陽の森パークベキュー場にて、「野田産ホタテと南部福来豚」を味わうために27名の会員が集いました。JR武蔵野線の八柱駅に10時に集合して、バスと徒歩で10分ほどで会場に着きました。途中の景色は、林の木々は黄色に色づき秋の気配を感じることができまし

た。バーベキュー場は屋根付きでも広く、かまどなども清潔に良く整備されている所でした。外の広場も学校の校庭のように広く、多くの家族連れや、子ども会の沢山の子ども達が集団で元気に遊んでいました。曇り気な子ども達の声を聞くことができました。曇り空ではありましたが、秋のさわやかな風に迎えられる心を癒やし、楽しむことができました。

全員手指消毒をし、参加者みんなで手分けして、テーブルやイスなどの拭き掃除、野田出身の同郷の人たちと協力しながらの作業も楽しく気持ちよかったです。炭をおこして、故郷からの「南部福来豚」「新鮮な荒海ホタテ」、焼けるのが待ち遠しい感じでした。ごちそうが沢山用意されていて大満足でした。他にも、サツマイモ、カボチャ、なす、シントウ、銀杏もありました。女性陣が野田の南部福来豚がたくさん入っ

た豚汁を大鍋いっぱい作りました。そのおいしさは格別でした。焼きそばは私も一生懸命焼きまわす。皆さんおいしく食べてくれて嬉しかったです。私も今日は色々の料理を沢山おいしくいただき、大満足でした。午後4時の閉園まで、参加者全員年代を超えて、野田村の素晴らしいところ、子どもの頃遊んだ野田の海や山、隣近所や同級生の事など、楽しく語り合い、話題は尽きませんでした。

初めて会った方がほとんどでしたが、同じ地区出身の方もいたり、楽しい時間を過ごすことができました。同郷野田村出身と言っただけで親しみがあり、安心して何でも語り合っことができました。特に、私の同級生が6名も参加してくれたのがほんとにうれい出来事でした。バーベキュー会場からの帰りは、バスに乗れず、同級生と歩いて八柱駅まで来ました。駅前

屋で6名のプチ同級会をやり旧交を暖め、盛り上がりました。この会に参加しなければ得られない貴重な機会を得て、ありがたい一日となりました。はまなす会のレクリエーションは3年ぶりの開催と聞きました。新型コロナウイルス感染症が収束していない中、会長を初め役員の方々は今回の企画は手探りで緊張しながらの計画だったと思います。参加者としてこの企画に感謝し、次回も楽しみにしています。今回企画運営をした千葉県幹事と役員の皆様、お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。



幹事あいさつ



かまどの炭おこし開始



大鍋の南部福来豚の豚汁



調理開始です

# 野田村の風景～懐かしの景色・昔と今～

ふるさと野田村の風景を昔と今で並べて紹介します。

【昭和の本町】



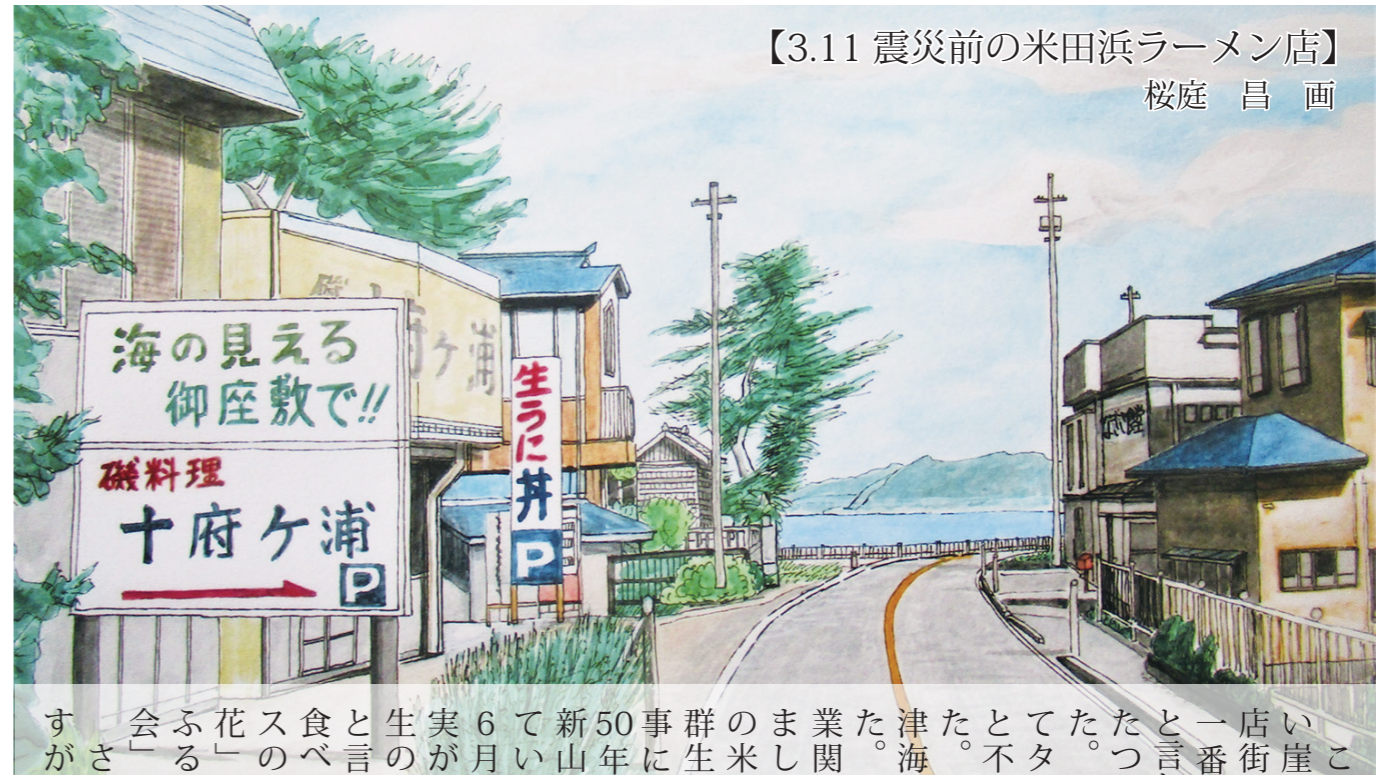
この写真はいつ頃撮ったものか不明ですが、今から40年以上前のものと思われる。道路がきれいに舗装されていますが、昭和30年代頃の家並みは変わっていません。古い話ですが、右側に写っている中英商店、トモエタクシーには、昭和20年代後半頃ですが、教科書を扱って買って行ったような気がします。並びに前田司法書士事務所、その隣に、その頃では野田村唯一のガソリンスタンドの北田商店がありました。その2軒隣には、はまなす会元会長の佐藤匡宏さんの実家がありました。現在は公園になっています。この写真の左側には徳屋呉服店があり、2011年3月11日の津波被害を受けましたが、幸いにも修復して現在も同じ場所にあります。ここから10軒くらい下に岩手銀行野田支店がありました。3月11日で被害にあい、今は公園

の隣に再建されています。本町通りは、国道45号線にあり、50年前の昔は城内では最も賑やかな所でした。8月24・25・26日の村祭り(愛宕神社例大祭)では、山車が3台運行し、混雑で歩けないほどの人出でした。この通りの両側に沢山の露店の屋台がぎっしりと軒を並べていました。おでん、焼きそば、鶏の唐揚げもあつたらうか? 30円か50円を握りしめて、心弾ませた小学校時代が懐かしいです。お祭りは野田村への郷土愛の源でした。

【現在の本町】



【3.11 震災前の米田浜ラーメン店】  
桜庭 昌 画



この絵は米田浜の小高い崖上にあつたラーメン店街です。このあたりで一番海側に「タコ神様」と言われていた綿津海(わたつみ)神社がありました。小学生の頃は、どうしてタコの神様なのか、不思議に思っていました。この神社の祭神は綿津海の神で海の神様でした。漁師や船乗りなど漁業関係者に崇敬されていました。また、この近くの米田浜にはハマナスの群生地があり、現在は大事に保護されています。50年も昔は米田、前浜、新山と砂浜に広く群生していました。ハマナスは6月に花が咲き、8月頃実が赤くなります。小学生の頃は、「ヘアードマ」と言つて、赤い実をよく食べていました。「ハマナスの花」は野田村の「村花」でもあり、私たちのふるさと会も「はまなす会」です。

折には必ず行つていたのがこのラーメン店街でした。「十府ヶ浦」「なぎさ」「はまなす」「民宿」がありました。磯ラーメンのなんとおいしかったことか。残念なことに、2011年3月11日の大津波で全て流失の被災を受けました。現在は野田村の北側で「新なぎさ」、愛宕町で「十府ヶ浦」が盛況に営業しています。今も帰省の時は懐かしみながらおいしく食べてきます。



【現在の同じ場所】

「2022ふるさと交流まつり」に参加して  
会長 久慈 士郎  
(大野つばさ会・在京たねいち会合同)

大野つばさ会と在京たねいち会合同の「2022ふるさと交流まつり」が令和4年11月12日(土)東天紅上野店にて開催されました。この日は久々の快晴で、過しやすい天候でした。

例年、この交流まつりには、大野と種市から多くの村民も参加し、会場の中の周りには町の特産品、海産物、果物などの屋台店が10店舗くらい来て賑わいます。

さて、交流会は初めに、主催者を代表して大野つばさ会会長より、コロナ禍でもあり開催有無について議論を尽くし開催に至った経緯の説明がありました。その後、来賓39名の紹介、洋野町長、町議会議長、財務大臣 鈴

木俊一(私書)、岩手県東京事務所長、岩手県人連合会長の来賓挨拶と全体的に15分程度、各人3分程度にまとめられていました。参加者は総数約230名位で大盛会でした。今回は、世相を反映してかウクライナ家族をもつご家庭も招待されていました。

そして、中央演台で参加者の無病息災を祈願して、主催者代表、来賓代表による鏡開きと一通りの儀式が終了し、いよいよ交流会の始まり、アトラクションと同時並行で進行しました。

テーブルには、県人連合会幹部(会長・副会長3名・事務局長)、浄法寺会代表と同席。時間の経過とともにほろ酔い気分

でいたところ、突然見覚えのある方が現れました。なんと阿部巖(金ヶ崎町出身・元玉川鉱山野球部)さんとすぐ分かり、奥さんが旧大野村出身で夫婦で参加したとのこと。短時間

であったが玉鉾時代、野田での生活の思い出を懐かしそうに話されていました。阿部巖さんは、過去に何回か「はまなす会総会・交流会」にも参加いただきました。

また、アトラクションでは、旧大野村出身で歌手の三本木智子さんの歌謡ショー、中野ナニヤドヤラの演舞と場内は大いに盛り上がり楽しい時間を過ごさせて頂きました。三本木智子さんには、「野田まつり」歌謡ショーに出演頂いたお礼を述べさせていただきました。

交流会もクライマックスに達し閉会となり、同テーブルメンバーで2次会と云う事で意気投合、会場をあとにしました。

「在京軽米会」に参加して  
幹事長 坂本 悟

令和4年11月12日(土)12時から「在京軽米会」

の総会・懇親会からお招きがあり、私が参加しました。会場は私たち野田はまなす会が平成5年度の総会を予定している「日暮里ラングウッド(旧ホテル日暮里ラングウッド)」でした。5階の「ルーチェ」というホールで受付を済ませ、会場で開会を待っていたら、粋な音楽が流れてきました。

隣の人に聞いたら「軽米小唄」ですと教えてくれました。なかなかいい音楽でした。「野田小唄」みたいな故郷独自の唄は野田村にはないなと、うらやましく思いました。総会への参加者はおよそ50名くらいでした。吉岡篤会長のあいさつが有り、ご来賓あいさつは山本賢一軽米町長さんでした。

町役場からは5名くらいの職員が出席していただきました。協議は6項目有り、手短かに終了しました。引き続き、懇親会になりました。来賓あいさつでは、唯一の来賓は「野田はまなす会」でしたの

で、私がしどろもどろのあいさつをしました。在京軽米会には初めての参加で、しかも「来賓あいさつ」のご指名で、緊張しました。

軽米町の議会議長さんの「乾杯」で皆さんが待っていた歓談になりました。知っている方がいなかったのが少し寂しい感じでしたが色々いい勉強になりました。

終わりは、万歳三唱と「軽米小唄」の盆踊りで締めとなりました。軽米の特産品はビールのホップなそう、そのホップ入りのビールを飲ませていただきました。

他に特産は、雑穀、木炭、さるなしドリンク、蜂蜜、花のチューリップなそうです。今度野田に帰省の折は軽米に寄つてみたいと思いました。

終わりに、在京軽米会に参加して学んだことをはまなす会のふるさと交流会に何か取り入れていけないか考えていきます。

## 第3回役員会 開催される

令和5年1月8日(日)「目利きの銀次虎ノ門駅前店」において、令和4年度第3回野田はまなす会役員会を開催いたしました。

野田村から事務局の小野寺総括主査にも出席いただき、出席者は12名でした。役員会に先立ち、



役員会集合写真

の活動について、3年延期している総会を開催については、別掲の通り開催することに決定しました。課題として、新型コロナの影響で会場変更が余儀なくされ、会場費が高くなってしまうことが出されました。また、令和5年度の年会費を

昨年の12月5日にご逝去された本会初代会長、故佐藤匡宏氏のご冥福をお祈りし、全員で黙祷を捧げました。協議内容は、1つ目に、10月に開催した日帰りレクの反省でした。次回、千葉でバーベキューを催す際にはさらに野田の食材を楽しめる会にしたいと担当幹事のお話がありました。2番目に、令和5年度

2000円にする事に決定しました。3つ目に、令和5年度から「はまなす通信の編集」を桜庭顧問から山根副会長へ担当変更することが了承されました。役員会の終了後に、引き続き同会場で新年懇親会が行われました。役員同士で昔懐かしの野田村での話題や最近見聞きした情報で楽しく盛り上がりました。

### — 報 告 —

野田はまなす会初代会長 佐藤 匡宏 様  
(享年93歳)が令和4年12月5日に逝去されました。

ご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げます。

### 【あしがき】

- ◆「日本漢字能力検定協会」が公募した昨年、令和4年(2022年)の世相を反映した「この年の漢字」は「戦」が第一位で選ばれました。第2位が「安」、第5位が「争」でした。
- ◆2022年2月24日にロシアが隣のウクライナの国を武力で侵攻した戦争や北朝鮮の数多くのミサイル発射が続いていることで、戦争の恐怖や不安から「戦」が選ばれたのでしょうか。
- ◆2番目に多かったのは安倍元首相の「安」です。昨年7月8日選挙の応援演説中に安倍元首相が男に銃撃されて死亡しました。これは日本では一番衝撃的な事件ではなかったでしょうか。
- ◆この男の母親は、「世界平和統一家庭連合(旧統一教会)」に多額の寄付をして家庭が破壊され、この団体が安倍元首相と関係があると思い、殺意を募らせていたと言います。
- ◆さて、第二次世界大戦や広島・長崎に世界で初めて投下された原子爆弾の悲惨さを学んでいけば、21世紀には戦争は起こらないだろうと信じていました。
- ◆武力での紛争解決ではなく、平和的な話し合い(外交)で「安」心して暮らせる世の中になってほしいと願っています。(S・S)

### 令和5年度・野田はまなす会 「総会及びふるさと交流会」開催のお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため野田はまなす会の総会及びふるさと交流会が中止となっていましたが、令和5年度は下記要領で開催することに決定しました。

但し、国や東京都の感染防止対策により開催延期もあることを予めご了承ください。

記

- |   |       |   |
|---|-------|---|
| 1 | 日 時   | 令和5年6月25日(日)<br>①総会 13時～13時40分<br>②交流会 13時50分～16時30分                        |
| 2 | 会 場   | 未定  |
| 3 | 会 費   | 交流会費 8,000円<br>年会費 2,000円<br>※中・高・大学等新卒者は無料招待。                              |
| 4 | 問い合わせ | 野田はまなす会事務局<br>野田村役場未来づくり推進課<br>0194-78-2111<br>会 長 久 慈 士 郎<br>090-5567-5795 |